



二月 (閏) 如月 参宿

二月四日立春の節より
月命庚寅二黒土星の月
晴剣殺西南方

旧 十二月小
正月大

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	其宿	下段	日出	月出	満潮	干潮
1日	月	みづのとうし	五黄	●下弦二時二八分、 福井永平寺涅槃会撰心(7日迄) 旧十二月小	廿三	佛滅	たつ	危	十し	6.42	17.08	—	11.02
2日	火	きのえとら	六白	豆まき、奈良春日大社万灯籠、 一粒万倍日	廿四	大安	のぞく	室	—	6.41	17.09	0.42	9.35
3日	水	きのと	七赤	節分、一粒万倍日	廿五	赤口	みつ	壁	—	6.40	17.10	1.37	9.22
4日	木	ひのえとら	八白	立春一八時四六分	廿六	先勝	みつ	奎	大まやう	6.39	17.11	3.26	13.04
5日	金	ひのと	九紫	尾鷲まつり(1日~5日)	廿七	友引	たいら	婁	ちう日	6.39	17.12	2.31	12.19
6日	土	つちのえとら	一白	初午、京都伏見稲荷初午祭、笠間稲荷初午祭、 新宮神倉神社火祭、一粒万倍日	廿八	先負	さだん	胃	神よし	6.38	17.13	4.19	14.50
7日	日	つちのえとら	二黒	北方領土の日	廿九	佛滅	とる	昴	神よし	6.37	17.14	5.10	15.51
8日	月	かえさる	三碧	●朔三時三九分、旧元日、庚申、こと始め、 針供養、島根出雲大社福神祭、旧丙申正月大	朔	先勝	やぶる	畢	万よし	6.36	17.15	6.42	16.56
9日	火	かのと	四緑	福島信夫三山眺参り、 加賀菅生石部祭、不成就日	二	友引	あやぶ	觜	十し	6.35	17.16	8.05	18.02
10日	水	みづのえいぬ	五黄	伊勢神宮祈年祭(23日迄)、 八戸えんぶり(20日迄)、己巳	三	先負	なる	参	●	6.34	17.17	9.25	19.10
11日	木	みづのと	六白	●建国記念の日、奈良橿原神宮例祭、 八せん終り、三隣亡	四	佛滅	おさん	井	母倉	6.33	17.18	10.18	20.18
12日	金	きのえ	七赤	甲子	五	大安	ひらく	鬼	天おん	6.32	17.19	11.12	21.11
13日	土	きのと	八白	一粒万倍日	六	赤口	とづ	柳	神よし	6.31	17.20	12.17	22.17
14日	日	ひのえとら	九紫	聖バレンタインデー、水沢黒石寺蘇民祭、 旧七草、奈良長谷寺だだ押し、松山椿祭16日迄	七	先勝	たつ	星	天おん	6.30	17.21	13.13	23.39

暦日上、二月初頭には「立春」といふ春めいた節日、設けられていたが、気候的、気温的には、雪または冷雨の日が多く、まだまだ寒波寒風の荒れ狂うときである。【冠】とくにこの項に入ることでもないが、「立春」は陰暦の正月で、太陽暦を使用する東洋の占いの新年の起点とされてきた。したがって表紙裏の年齢見表にも説明があるように、立春前日の節分までは、前年の生まれ年になる。この月は一カ月最少日の特異月で、しかもほぼ四年一回閏日がある。

【婚】婚礼に直接関係ないが、十四日は「聖バレンタインデー」といふ、欧米ではこの日、女性から男性にプロポーズをしてもいいという風習がある。

もともとバレンタヌス司教の殉教の日であるが、これにギリシャ神話の女神のロマンが重なったものらしい。最近ではわが国でも

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	其宿	下段	日出	月出	満潮	干潮
15日	月	ひのと	一白	●上弦一六時四六分、全国緑化キャンペーン、 ねはん会、横手かまくら	八	友引	のぞく	張	神よし	6.29	17.22	14.49	16.17
16日	火	つちのえとら	二黒	全国狩猟禁止、日蓮聖人誕生会	九	先負	みつ	翼	天おん	6.28	17.23	11.36	17.49
17日	水	つちのと	三碧	伊勢神宮祈年祭(23日迄)、 八戸えんぶり(20日迄)、己巳	十	佛滅	たいら	軫	ちう日	6.27	17.24	12.26	19.18
18日	木	かえさる	四緑	二の午、大つち、一粒万倍日、不成就日	十一	大安	さだん	角	ぶく日	6.26	17.25	13.19	20.26
19日	金	かのと	五黄	雨水一四時三四分、 アレルギー週間(17日~23日)	十二	赤口	とる	亢	大まやう	6.24	17.26	14.14	21.19
20日	土	みづのえとら	六白	岡山西大寺会陽祭、 水戸梅まつり(3月31日迄)	十三	先勝	やぶる	氏	大まやう	6.23	17.27	15.11	22.03
21日	日	みづのと	七赤	旧小正月	十四	友引	あやぶ	房	十し	6.22	17.28	16.09	22.42
22日	月	きのえいぬ	八白	●望三時二〇分、皇太子誕生日、 京都醍醐寺五大力尊仁王会、三隣亡	十五	先負	なる	心	●	6.21	17.29	17.06	23.17
23日	火	きのと	九紫	京都醍醐寺五大力尊仁王会、三隣亡	十六	佛滅	おさん	尾	母倉	6.20	17.30	18.02	23.49
24日	水	ひのえ	一白	大田原大田山地蔵尊春大祭	十七	大安	ひらく	箕	母倉	6.19	17.31	18.57	24.21
25日	木	ひのと	二黒	京都北野天満宮梅花祭、一粒万倍日	十八	赤口	とづ	斗	神よし	6.17	17.32	19.51	25.10
26日	金	つちのえとら	三碧	良忍上人忌、天しゃ、小つち、不成就日	十九	先勝	たつ	牛	よろづ	6.16	17.33	20.45	25.59
27日	土	つちのと	四緑	福井勝山左義長祭、旧二十日正月	廿	友引	のぞく	女	神よし	6.15	17.34	21.39	26.52
28日	日	かえさる	五黄		廿一	先負	みつ	虚	天おん	6.14	17.35	22.33	27.45
29日	月	かのと	六白		廿二	佛滅	たいら	危	天おん	6.12	17.36	23.26	28.38

プレゼントするならわしを
まねて、女性から男性にわたすチョココレットなどが盛んに売られるようになった。

【祭】一節分は、本来は四季の移り変わる時々のことをいうのであるが、とくに暦上の一年の最初の日、立春の前日、地方によっては旧暦の大晦日(おみそか)として、それぞれ伝説ある行事が行われている。

一般的には「福は内、鬼は外」と福豆(大豆の炒ったもの)をまき、この豆を一粒多く、だけ食べる厄よけがある。終(ひいらぎ)の枝にイワシの頭をさしたり、ニンニクなど強い臭気のあるものを添え「邪気」福豆を行う風習もある。福豆をまき悪鬼を払うので追儺(おにやらい)といふ古くから神社仏閣で、この儀式は年男により行われている。

十一日は「建国記念の日」として、国民の祝日になっている。

太平洋戦争終戦前は、紀元節といつて四大節の一つであったが、終戦後は読んで字のように、日本建国の記念日に定められた。